

京都産業大学同窓会 宮崎県支部便り

2009(平成21)年
第2号

発行日 2009年1月1日
発行 京都産業大学
同窓会宮崎県支部
E-mail ksu383ki@yahoo.co.jp

ごあいさつ

宮崎県支部
支部長 堀之内英介



あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、健やかに過ごしの事とお喜び申し上げます。

京都産業大学同窓会宮崎県支部は、平成11年に設立し、会員相互の親睦を図ることはもちろん、母校の充実と発展に少しでも力になるべく、これまで活動してまいりました。今年で記念すべき設立10周年を迎えることになり、ますます同窓会活動を活発化するとともに、母校のさらなる発展に、微力ながら、力を尽くしていきたいと考えております。

また、昨年8月には、お隣の大分県支部が設立され、大変心強く感じております。九州各県支部と強力なスクラムを組んで、

支部活動のネットワークもますます充実させていく所存です。

昨年は、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した、世界的な景気後退にあえぐ年でありましたが、我が京都産業大学におきましては、理学部の益川敏英教授が、2008年のノーベル物理学賞を受賞され、その報道に触れるたびに、大変誇らしく、連日、うれしい思いをさせていただきました。

今年は、まず春先に野球のWBC(国地・地域別対抗戦)日本代表の合宿が宮崎で行われるなど、明るい話題もあります。景気後退による閉塞感を、地方からも吹き飛ばしていく元気が必要でしょう。

1月31日(土)に開催する宮崎県支部第10回総会・懇親会においても、益川教授の栄誉ある受賞について、会員一同、喜びを共有したいと考えております。会場お待ちしております。

2009年が、よい年となりますよう、心からお祈りいたします。

ビッグニュース

祝 益川教授 ノーベル物理学賞受賞

スウェーデン王立科学アカデミーは、2008(平成20)年10月7日、ノーベル物理学賞を、京都産業大学理学部の益川敏英教授、シカゴ大学の南部陽一郎名誉教授、高エネルギー加速器研究機構の小林誠名誉教授の日本人3人に授与すると発表しました。素粒子の理論で先駆的な役割を果たしたことが評価されたとのことです。

益川教授、小林名誉教授の受賞理由は「C P対称性の破れの起源発見」のことですが、難しい話はさておき、受賞のインタビューでは、「あまりうれしくない。」と発言され、話題を振りまく一方、「若者のはちゃめちゃなエネルギーの爆発が、学問の発展には必要。」「世の中は思っている以上にバラエティーに富んでいる。これが専門と決めてかからず、周辺のことにも興味を

持って世界を広げて。カリカリ勉強するだけが人生じゃない。」とわかりやすい言葉で話をされるのが印象的でした。

同月16日に、学生と教職員を対象に京都産業大学の大教室で行われた、講演会「科学へのロマン」では、「あこがれという原動力があって、ほかの人ができないような努力ができる。」と語り掛け、「物理学とは何か」との質問には「まず第一に飯のタネ」とおどけてみせ、教員を目指している学生には「本質的な疑問を生徒に植え付けて、自分で解決させることが大切。」とアドバイスされたとのこと。大教室は満員だったそうです。

益川教授、本当におめでとうございます。そして、宮崎での講演、いつかよろしく願います。



笑顔の益川教授

支部活動紹介

京都産業大学DAY 2008 IN宮崎

「京都産業大学DAY 2008 IN 宮崎」が2008(平成20)年6月15日(日)に、宮崎観光ホテルで開催されました。

当日、宮崎市内は朝から激しい雨。来場者の出足を心配しましたが、京都産業大学工学部大槻公一教授による鳥インフルエンザに関する講演には、会場いっぱいの人が来てくれました。

2007年に宮崎で3度も発生した鳥インフルエンザ。大槻教授は、生産者のいち早い通報と、宮崎県の迅速な対応を高く評価しておられました。宮崎で発生した鳥イ

ンフルエンザは、中国の青海湖で発生していたものと同じウイルスで、かなり毒性の強いウイルスだったそうです。〇〇省の対応がではなく、オールジャパンでの対応が求められているということでした。

講演の終了まで、席を立つ方は全くおられず、皆さんとても熱心に聞いておられました。

講演やその他の大学主催の行事終了後には、大学関係者、在学生の保護者、卒業生を交え、交流会を行いました。



講演する大槻教授

会員短信

ダンロップフェニックストーナメント

ダンロップフェニックストーナメントが、2008(平成20)年11月20日(木)から23日(日)まで、宮崎市内のフェニックスカントリークラブで開催されました。

この大会は、日本ゴルフ界最高の、伝統あるトーナメントであり、プロゴルファーの世界ランキングに関しても、日本ツアーの中で最もポイントが高い大会です。

その大会ボランティアとして、京都産業大学OBの2名で参加してきました。スコアラーやホールマーシャル担当などです。

スコアラーは携帯端末を持って特定の組に付きます。スコアを端末に入力し、そのデータが、会場内やテレビ中継のスコア表示、ネット速報などにリアルタイムで反映されます。スコアを間違えると、影響が大きいので、かなり緊張します。状況によっては、パニック状態に陥ってしまうスコアラーもいるとか。ある意味、ボランティアの域を超えた、終了後には、非常に充実感のあるボランティアといえるでしょう。

ホールマーシャルは、ギャラリーを整理したり、クワイエットボードを出して、選手が集中できるようにします。クロスウェイ(フェアウェイを横切るところ)を横切って、早く隣のホールに行きたいギャラリーには、文句を言われることはありますが、概ねギャラ



リーのマナーはよく、スコアラーに比べればかなり気楽にできる業務です。

大会は、プラヤド・マークセン選手(タイ)が通算8アンダーで優勝。注目の石川遼選手は、首位と一打差の通算7アンダーで、単独2位でした。

石川遼選手が連れてくるギャラリーの数の多さにはびっくり。今回、タイガー・ウッズ選手は出場していませんでしたが、ウッズ選手がいたとしても、石川選手を取り巻くギャラリーがやはり一番多かったでしょう。他にも有名選手が多数いるのですが、ギャラリーの数はまばら。初めてこの大会に出場した、地元宮崎県出身の甲斐慎太郎選手には、ある程度のギャラリーがいました。

17才とは思えない、石川遼選手の積極果敢なプレーは本当にすばらしく、プレー後の移動もきびきびしていて、さすがしい気持ちにさせてくれました。前回アマチュアとして、初めてこの大会に出場した頃は、「ハニカミ王子」と言われていましたが、まさに若き、一流のプロゴルファーでした。

この大会に、京都産業大学出身の選手は参戦していませんが、いつか京都産業大学出身の選手が出場し、優勝。その優勝を決めた18番ホールのグリーンに、我々京都産業大学OBのボランティアが、スタッフジャンパーを脱ぎ捨て、駆け寄って握手する。そんな夢を叶えられる日が来ることを信じて、大会が盛り上げるため、来年もボランティアとして、頑張ります。

A.I.(昭51年経営卒)、T.S.(昭58年経済卒)

募集！会員短信に掲載せんですか？

学生時代の思い出、近況などをお寄せください。可能であれば写真(別途郵送でもOK)も添えて電子メールで事務局(ksu383ki@yahoo.co.jp)まで。この支部便りまたは宮崎県支部のホームページ(<http://www.geocities.jp/ksumiyazaki/>)に掲載させていただきます。